

# 人生を成幸(成功)に導く「人脈力」は“作る”のではなく“築く”もの!

—ユニークなビジネスモデル“青木流・人間接着業”—

本誌編集長 佐藤 公 (さとう たかし)

(2025年錦秋号)

21世紀は「人間がごちそう」のサロン文化の時代である。

人生、すべて縁(connection)に始まる。出会いである。だから、縁を大切にすることは人生を大切にすることだ。そして、人生を成幸(成功)に導く「人脈力」は“作る”のではなく“築く”ものである。

「信頼の絆」を創造していく「人間力」を磨き、利他の心を育む「生き方」を心掛けつつ、積極的に社会に出る意識を持てば、「個(の)力」が高まり、自然と人脈は「築」かれていくものである。

大切なことは、利害関係で「作った人脈」は時間経過で色褪せていくが、「信頼関係」で「築いた人脈」は生涯褪せることはないのである。

人脈を築く組織の一つに異業種交流会がある。異業種交流会の歴史は古く1960年代の日本が始まったとされる。当時は、高度経済成長期における企業間の情報交換や協力関係の構築を目的としていた。現在では、グローバル化やデジタル化、AI化の進展により、その重要さは一層高まっている。産業構造が急ピッチで変革している情報時代は「ノウハウ」の時代から「ノウフウ」の時代への転換でもある。

かつて、異業種交流会の「知恵の輪」(現在は休会)設立時代表、毎日放送局次長下村澄」という組織があった。「知恵の輪」と言

う会名は「解けそうで解けないみんなの輪」と言う願いを込めて命名したという。

第1回は昭和60(1985)年2月に東京赤坂の東急ホテルで開催。全国の勉強会が大同団結して行つた年に1回の勉強会祭り。全国各地(東京、新潟、横浜、札幌、広島、熊本、高松、仙台など)でも開催し、人脈の祭典と言われた。

また、会の設立が1963年(昭和38年)12月に新宿でスタートし、現在も継続している「丸の内朝飯会」(注1975年1月から「東京ステーションホテル」で開催に合わせて改名)という老舗勉強会がある。週に1回(毎週木曜日)、午前7時半から9時まで行なっている。青木ヒューマンハーバーの同志である、市原実氏(1966年入会、中小企業診断士)は15年間同会の世話役をしていた人脈の達人である。

そして、現在「丸の内朝飯会」の兄弟会が全国(横浜、札幌、梅田など)に生まれている。東京のメンバーが各地に転勤になったのを機会に始めたものだ。

人脈を築く触媒役となり、しかも「ギフトアンドギフト」「黒子に徹する」などの度肝を抜く経営理念(?)で人間接着業を展開してきた「唯一無二の敬宮(経営)者」がいる。人間接着剤の青木匡光(まさみつ)先生だ。

青木先生は昭和8年(1933)10月7日東京生まれ、今年92歳を迎えた。

昭和50年(1975)、株式会社アソシエーツ・エイランを設立、メディアエイター(人間接着剤)となるユニークなビジネスモデル「人間接着業」を確立した。

「40歳になった時、人と人との出会いを演出し、互いに知的創造活動をしてもらう、人間接着剤に徹するのが私のライフワーク」と思い決めたという。

新宿のオフィスをサロン風に、意欲人間に「よい出会い」を演出して、人生に歩みだす勇氣と励ましを与える「ヒューマンハーバー(人間の港)」を45年にわたって無償で開港してきた。本人は出船入船に心くばりする港の管理人を自認する。

人間接着業というビジネスで驚かせるのは、報酬は要求しないで「Give and Give」の経営理念で運営してきたことである。会社の創業期は売り上げがないのである。青木先生は「報酬は忘れた頃に講演や執筆等を頼まれるので、先義後利だ」と笑顔をみせる。

処女作『顔を広め味方をつくる法』(日本実業出版社)がベストセラーになるまでは6年くらい厳しかった。そのサブタイトルが『ビジネスマンのための人脈のつくり方』で、それから人脈ブームが巻き起こったのでよく売れて印税が入りました。その後、著書は都合30冊以上となりました。それでも決して贅沢はできなくて物やお金は不自由でも心は豊かでした」

「僕は45年、ヒューマンハーバーを運営してきた、そこで出会う素晴らしい人達と楽しくおしゃべりをしてきたことが元気の源です。一所懸命、Give and Giveして心の調味料を与え続けて生きています。お役に立った人たちが将来パワーを持って来て、自分の力を発揮しようという時に(私に)協力してくれれば嬉しいなと思っています。のが、その通りになりました。パワーを持ち始めた人達が「青木の灯を消すな」と言っている形で協力してくれています」と事業モデルを振り返る。

このように青木先生は「忘己利他」の精神で、多くの人に優れた人財を紹介して、育成支援をされてきた。青木先生から恩恵を受けた高弟(人生の成功者)も高齢となり、その輪は縮小傾向を辿っている。

そこで青木イズムこと「ヒューマンハーバー」精神を次世代に継承し、全国に新たな「ヒューマンハーバーNEXT」(仮)を結成したいと考えた。

まずは、ヒューマンハーバーの元祖たる青木先生の門下生の推薦で次世代人脈をネットワークしてはどうだろう。良い人材を育成することは我々世代の責務である。

政治家 後藤新平の言葉に「金を残すは三流、仕事を残すは二流、人を残すは一流」とあるのだ。